



# Sekisyo 通信



R6・9・9

NO, 15

文責：校長

酒井



めざす児童像：夢や希望を追い求め、失敗も学びにかえる子

## 100点でなくても！（第2回避難訓練）

100点じゃなくては駄目です！

避難訓練ではいつも子ども達にそう伝えています。「ハンカチや帽子を忘れても、話をしても、もちろんふざけても、1点欠けただけでも命がない。」と、訓練の度に、繰り返し、繰り返し厳しく…。

今回の本年度2回目の訓練は、休み時間での地震を想定してのものです。子どもたちには事前に予告こそしましたが、校庭や教室で遊んでいる最中での実施ですので、警報が鳴った時、放送で指示したときの子供達の反応と行動が気になります。職員室では、教頭先生が時計を見ながらタイミングを計ります。

では、始めますね。

最終確認の後、放送を通してまずは警報が鳴りました。私は、校長室の窓から子ども達の様子を伺っていましたが、校庭では大勢の子ども達が思い思いに遊んでいます。避難訓練があることを忘れていたのでしょうか、突然響く警報に驚き声を上げる子もいました。やっと冷静さを取り戻した子ども達、校庭の中央部に集まり腰を下ろします。高学年の子が周りの子ども達に指示を出している声が聞こえます。しかし、ライオンズの森の中ほど、まだ夢中で遊んでいる黄色い帽子が2つ。すると…、取り残された1年生を迎えに4年生が一人走り出します。素早く近寄っては手を引いて階段を駆け下り、みんなが待機する場所で素早く座りました。

その後、校舎から次々と非難してきた子ども達、警報の後、教頭先生の放送の指示で全校児童、スタッフ全員の避難が終わるまでに要した時間は3分20秒、合格点です。

すぐに始まった校庭での反省会で、校長より例の100点満点の話をしました。真剣に話を聞く子ども達に、先ほどの4年生の話も付け加えました。

（前略）今日の避難訓練、残念ながら80点の子もいました。しかし、中学年の子が、その子の足りなかった20点を補って100点満点にしてくれました。それは…（後略）

東日本大震災での「釜石の奇跡」は記憶に新しく、中学生がとっさの判断で小学生を背負ったり、手を引いたりしながら安全な場所に避難したことでたくさんの命が救われました。今回の避難訓練も、訓練ですから型はもちろん大切です。しかし、子どもたち同士の関係性を普段から丁寧に育てることは何よりも大切であるとつくづく感じました。

<決死の脱出！>

避難訓練の後半は救助袋体験。全校生が見守る中、代表の2名の先生が2階の理科室から決死の脱出！？を試みました。

遅れた場合は、このような避難の方法もあります。しかし、一人一人ですから時間がかかります。逃げ遅れないよう、どうすれば良いかよく考えて、自分の命は自分で守りましょう。

係の先生の言葉です。（避難訓練の様子はHPで紹介しています。）

裏面もご覧ください



## 夏休み読書マラソン（10冊完走者）

1年	西牧 永笑 吉田 琉生 小池 和歳 芳賀 美咲 塩澤 昊 五十嵐 美月 我妻 沙南 薄井 晴向 鈴木 颯太
2年	相楽 葉月 圓谷 希歩 二瓶 由季 遠藤 朱莉 矢吹 優菜 佐藤 奏汰 塩田 陽理 添田 舞紘 矢吹 朱莉 石井 麻絢 後藤 羽澄 川越 悠花 小豆畑 琥心 岩淵 未緒 薄井 柚那 矢吹 柚乃
3年	石井 凜 遠藤 彩華 角田 愛依 江尻 早希 菅野 七歌 水野 大智 橋本 政輝 上野 滯 岸浪 陽菜 我妻 京佳 鈴木 感人 添田 泰樹 矢内 快音 瀬谷 心愛 永沼 恵 迎 暖
4年	長澤 優 薄井 玲那 有松 佑莉 菊池 美帆 塩田 彩心 三瓶 友佑 穂積 聖羅 江口 いちか 小原 彩友香 圓谷 歩夢 矢吹 英汰 矢吹 颯大 吉田 ひかり
5年	矢吹 優奈 水野 賢裕 根本 琉雅 小豆畑 心麗 我妻 愛空 金澤 澄怜 橋本 俐玖 曾根 奈歩
6年	羽田 悠真 青戸 夏音 西牧 彩颯 小豆畑 紗来 小木 結希音 角田 龍亮 小野 航聖 渡邊 優樹 野崎 夢羽 添田 煌雅 鈴木 未来乃 福田 捷翔 齋藤 美咲 後藤 奏絵

～以上 敬称略～

9月5日、課外活動合唱部の激励会の後に「夏休み読書マラソン」の表彰を行いました。

本校の教育活動の柱に読書活動がありますが、夏休みの読書量が減ってしまうことに頭を痛めています。折角の夏休みですが、学校から貸し出せる図書は一人2冊。500人近い子ども達ですので、それ以上の貸し出しは難しいですし、夏休み中に貸し出しするのも現実的ではありません。苦肉の策が、町の図書館や各地区の自治センターの図書コーナーとのコラボ。図書館も自治センターも快諾してくださいましたので、早速、図書館担当教師がカードを作成しました。学校から借りた2冊と合わせて10冊に到達すれば、読書マラソン完走（完読）です。

休み明け、果たしてその結果は…！？当初はどれくらの子ども達が参加するか不安でしたが、ナント76名が完走しました。中には初めて図書館や自治センターに足を運んだ子もいて、今後に繋がるとても有意義な取り組みとなりました。保護者の皆様のご協力に感謝します。

読書マラソン完走者（完読者）には、「本の虫賞」を授与しましたが、さらに、町の公民館より副賞としてヒミツの豪華プレゼントも届きました。表彰の際には「家に帰ってから開けるように」と、念を押したのですが、さて、守られたでしょうか！？（笑）

その日、下校途中の6年生が、プレゼントを片手に笑顔で声をかけてきます。

**校長先生、冬休みも読書マラソンやるんですか？**

**是非やろうね。今度のゴールは何冊にしたらいいと思う？**

**う～ん…50冊！**

**エーッ？**

読書は、心と知識を豊かにします。小さい頃に身につけた読書習慣は、必ず人生の宝物となります。石小ではこれからも読書活動を推進します。



< 完走賞とヒミツの豪華… >



< 児童代表の3年生 >